

地域ブランドを市内外に

組合初の資料館整備

舞鶴かまぼこ協同組合（本部・舞鶴市下安久、高野真一理事長）は、特許庁認定の地域ブランド「舞鶴かまぼこ」の歴史を振り返る初の資料館をJR西舞鶴駅前に整備、10日に現地で完成式典を行う。市民への周知を進め、観光客にはブランド力を総合的に広めていく狙い。

市内の練り製品製造販売5社で構成する同組合は、昨年にまいづる市民自治研究会（品田茂代表）が企画し、有志などで結成された「行け行け！ かまぼこ調査隊」からの提言を受け、資料館整備を決めた。資料館を通じて認知度を高め、市内外の消費拡大につなげる。

資料館の場所はJR西舞鶴駅前の京都交通バスター待合所内の一画で広さは約10㎡。展示スペースは同社が無償で組合に提供した。

館内には組合と組合員の歴史、かまぼこのルーツなどを探るパネルが並び、設立当時の写真や江戸時代に取り引きされていたことを示す証文など

を集め、魚肉を練り上げるブレンダーなどの製造設備も置いた。

舞鶴独自の製法のこだわりや、最近の組合の取り組み状況なども紹介。

白壁で仕上げるなど、西舞鶴の名所「田辺城跡」を意識したデザインにした。

事業費は300万円。府の地域力再生プロジェクト支援事業を受け、140万円の補助を受けた。（同組合は☎0773・75・0865）〔岩本〕